



1. 学長室で少し緊張しました
2. 楽しく興味深いお話ばかりでした
3. 熱い思いを語っていただきました

皆さんの チャレンジが 地域活性化の 原動力

連載

夢を叶える
大月仕事人



今月の interviewer
大月短期大学
（左）ふるやたかほ 古屋高穂さん
（右）ののむらはじめ 野々村一人さん

大月の魅力（＝ブランド力）を創造

“夢を叶える大月仕事人”の連載第7回目は、「大月短期大学学長」として活躍されている柳沢幸治さんに、大月短期大学生がインタビューしました。



やなぎざわ こうじ
柳沢 幸治さん

～プロフィール～
市立大月短期大学学長 東京都日野市在住
座右の銘：何とかなるさ
大月のお気に入りの場所：大月駅（富士山がきれいに見えるから）

「お仕事とキャリアについて教えてください。」

大月短期大学に来て27年目になります。仕事は主に大学全般の管理・運営をやっています。この仕事に就く前は、学生兼仕事という感じで、海外の僻地に行ったり、海外や大学の歴史についての本を書いてお金をもらっていたりしました。

人生いろいろありまして、普通に就職はできませんでしたが、そんな時に大月に紹介があり、

「今の仕事と出会いました。」

戦後間もない頃、大月にはたくさんの方がいました。当時、織物業が盛んで「ガチャマン」と呼ばれる機械織り機がありました。ガチャマンと機を織ると1万円になったということから「ガチャマン」と呼ばれていて、地域の産業であった織物業がとても活発な時期でした。

これ以外にも、大月はこれま

でに活性化した時期をたくさん経験しています。そして、大月という地域自体、探せばいくらでも魅力のある地域なんです。その魅力をいかんとして見つけて、生かしていくのが課題であって、それを市民の皆さんや学生と一緒に考えて、皆でPRして実行していくことが必要ではないかと思っています。

「大月市を活性化させていくためには何が必要ですか。」

海外へ調査に行った時、現地の人々が裸で踊っていました。多くの人々はそれを見て、文化のレベルが低いと思いがちですが、そうではなくて、それは自然環境の中に最も適応しているそれぞれの文化なんだと分かりました。それと同じことで、大月も今の状況の中で、「どうやったら最適応させることができるのか」を考える必要があると思います。

大月はとても住みやすい地域です。都心にこれだけ近いところ

で、これほどの自然がある場所はないと思います。ただ、その近さゆえに、逆に市民の皆さんが東京の方だけに目を向けてしまっています。大月の魅力を見つめるためには、学生さんが原動力となって多くのことにチャレンジしてもらい、「こういうことも出来るんだ」と市民の皆さんに気付いてもらえれば、それが起爆剤になると思います。

「私たちが若者にメッセージを。」

「継続して学ぶこと」と、「何事も真摯に受け止めること」がこれから必要なことであり、大切なことだと思います。

皆さんは可能性の塊です。学生は、よく「失敗した」と言うことがありますが、人生100年時代の内の1年なんて、100分の1です。大したことではありません。失敗した時に反省はしなければいけません。そこから逃げては駄目だと思います。また、若い時にいろいろな場

所へ行つて、さまざまな文化に触れて「経験」をしてください。私は学生時代に「青春18きっぷ」を使って東京から博多駅まで行く際に、各駅に降りてカップ麺を購入していきました。すると、スープの味がだんだん変わっていくことに気が付きました。そんなつまらない研究でさえ、後になってそれが地域の魅力（＝ブランド力）の創出につながっていくと思えました。

大月には日本で一番のブランドである「富士山」があります。それを使って何が出来るのか、あるいは、今、大月を通り過ぎてしまう人々を、いかにして滞在させるのか、ということを考えて皆さんで考えてみてください。それが大月の魅力につながります。

大月に降りたら何か面白いことがあるという意識が広がれば良いと思います。

経験すること、学ぶこと

インタビューでは、いろいろな国へ調査に行き、サバイバルをしたことなど、数多くの興味深い体験を話していただきました。

私たちは、多くのことを経験された柳沢さんのお話から、次のことを学びました。

- ①新しい考え方は、新しい経験から
- ②楽しみながら学ぶことが大切

今回のインタビューで、多くの経験をするのも、大切な学びだと思ようになりました。柳沢さんのように、自分の良い経験を次の世代に伝えていける大人になれるよう、これからも学び続けていきます。

